



# Sun Control Station

---

リリースノート

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 817-5202-10  
2003 年 12 月, Revision A

コメントの宛先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, Java, JavaServer Pages, JSP, JumpStart, Netra, Sun Cobalt, Sun Cobalt RaQ, Sun Cobalt CacheRaQ, Sun Cobalt Qube, Sun Fire, および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。]

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Control Station Release Notes  
Part No: 817-4128-11  
Revision A



# 目次

---

リリースノート	1
フレームワーク	1
MacOS X 版の Mozilla または Camino で https を使用して選択ウィンドウを読み込むことができない	1
Java を使用不可にするとアプレットのエラーメッセージが表示されない	1
バックアップ	2
「Restore」メニューで最新のバックアップファイルがデフォルトの選択肢として表示されない	2
ヘルスマニタ (Health Monitoring)	2
設定値の不一致	2
ポーリング間隔	3
デフォルトの間隔	3
イベント生成スクリプトが常に eth0 の IP アドレスを使う	3
ソフトウェア管理 (Software Management)	4
表示オプション	4
パッケージファイルを選択せずにアップロード	4
URL の妥当性検査	4
Sun Cobalt Qube™ 3 アプライアンス	5
電源管理 (LOM)	5

ネットワークインタフェース	5
電源コマンド	6
ヘルスマニタでの予想外の LOM 情報	6
AllStart	7
複数の CD-ROM からのディストリビューションの読み込み	7
Red Hat 7.2 を LILO とともにインストールできない	7
クライアントを使用可能にするために十分なディスク容量がない	7
各言語対応環境の制限事項	8
Solaris ベースのクライアントでのモジュールのインストールの問題	8
ASCII 以外の文字が正しく表示されない	8

# リリースノート

---

## フレームワーク

### MacOS X 版の Mozilla または Camino で https を使用して選択ウィンドウを読み込むことができない

https を使用して Sun Control Station にログインする場合、Web ブラウザ Mozilla および Camino でアプレットが正しく読み込まれません。

https を使用してコントロールステーションに接続するには、Web ブラウザ Safari をご使用ください。

また、Mozilla または Camino で http を使用して、セキュリティ保護を行わずにコントロールステーションに接続することもできます。この場合、次のように指定します。

`http://<コントロールステーションのホスト名>:8080/sdui/`

### Java を使用不可にするとアプレットのエラーメッセージが表示されない

Java を使用不可にすると、選択ウィンドウアプレットのページにテーブルヘッダーだけが表示され、本文が表示されません。ページソースのエラーメッセージはユーザーインタフェース (UI) に表示されません。

この問題を回避するには、Web ブラウザで Java を使用可能にします。

---

## バックアップ

### 「Restore」メニューで最新のバックアップファイルがデフォルトの選択肢として表示されない

復元機能を実行すると、「Restore Administration」テーブルが表示されます（「Station Settings」>「Backups」>「Restore From Backup...」を選択）。

`/var/mgmt/backups` の横のフィールドには、最新のバックアップファイルがデフォルトで表示されるはずですが、しかし、選択できるバックアップファイルが複数ある場合、2番目に新しいファイルが表示される可能性があります。

この場合、プルダウンメニューから最新のファイルを選択してください。ファイルは、最も新しいファイルから最も古いファイルの順で表示されます。

バックアップファイルの名前は次の形式になります。

`bk_YYYYMMDD_hhmm.sc`

ここで `YYYYMMDD_hhmm` は、年、月、日、時 (24 時間制)、分を表します。

たとえば、ファイル名 `bk_20030426_1745.sc` は、バックアップファイルが 2003 年 4 月 26 日の 17:45 (午後 5:45) に作成されたことを示します。

---

## ヘルスマニタ (Health Monitoring)

### 設定値の不一致

1 台のホストは複数の **Sun Control Station** によって管理できます。ヘルスマニタの設定 (CPU アラームのしきい値など) は、どのコントロールステーションからでも変更できます。1 台のコントロールステーションで設定を変更すると、すべての管理対象ホストに新しい値が適用されます。

この場合、最新の設定値によって管理対象ホストの前の値は上書きされますが、ほかのコントロールステーションの UI に表示される設定には最新の値が反映されません。

この問題を回避するには、特定のホストを複数のコントロールステーションで管理する場合、各コントロールステーションのヘルスマニタの設定を同じ値にしてください。

## ポーリング間隔

「Alive Polling」(アライブポーリング)の間隔は1分以上に設定できます。「Status Polling」(ステータスポーリング)の間隔は1時間以上に設定できます。

アライブポーリングの間隔は5分以上に設定することをお勧めします。**Sun Control Station**で複数のホストを管理する場合は、間隔をさらに長く設定する必要があります。コントロールステーションでアライブではないホストが検出された場合、アライブポーリングのタイムアウト時間は1分です。

ステータスポーリングの間隔は2時間以上に設定することをお勧めします。**Sun Control Station**で複数のホストを管理する場合は、間隔をさらに長く設定する必要があります。コントロールステーションで通信できないホスト(SCS エージェントの障害を含む)が検出された場合、ステータスポーリングのタイムアウト時間は10分です。

アライブポーリングおよびステータスポーリングを頻繁に行うと、非常に大きなファイルが生成され、/var ディレクトリが一杯になる可能性があります。

## デフォルトの間隔

アライブポーリングの間隔はデフォルトで5分に設定されています。

ステータスポーリングの間隔はデフォルトで2時間に設定されています。

これらのデフォルト値は変更できます。詳細は、PDF ファイル『管理者マニュアル』の第3章にあるスケジューラ機能に関する説明を参照してください。

## イベント生成スクリプトが常に eth0 の IP アドレスを使う

**Health Monitoring** モジュールを使用する管理対象ホストでは、eth0 が有効なとき、イベント生成スクリプトによって、常に eth0 の IP アドレスがその他の情報とともにコントロールステーションに返されます。

この管理対象ホストが、eth0 に関連付けられている IP アドレスとは別の IP アドレスを使用してコントロールステーションのフレームワークにインポートされた場合、ヘルスマニタの状態テーブルに、この管理対象ホストの正しい状態が表示されない可能性があります。

この問題を解消するには、管理対象ホストの詳細情報のテーブルを表示しているときに、テーブルの上にある「Update Now」をクリックします。アライブポーリングまたはステータスポーリングの各タスクで正しい状態が検出されるのを待つこともできます。

eth0 に関連付けられた IP アドレスを使用して管理対象ホストを再インポートすることもできます。

---

## ソフトウェア管理 (Software Management)

### 表示オプション

Software Management モジュール内では (「Packages」 > 「Display Options」を選択)、表示するパッケージファイルの種類を指定できます。

特定のアプライアンスのパッケージファイルだけを表示するには、「All」という項目、およびパッケージファイルを表示したくない個々のアプライアンスを、「Products Displayed」スクロールウィンドウから「Products Not Displayed」スクロールウィンドウに移動してください。

### パッケージファイルを選択せずにアップロード

「Package Upload」画面で、パッケージファイル、またはパッケージファイルのリストを含むファイルを選択せずに「Upload」をクリックすると、「Invalid Path Error」というメッセージが表示されます。

パッケージファイル、またはパッケージファイルのリストを含むファイルを選択してから「Upload」をクリックしてください。

### URL の妥当性検査

BlueLinQ サーバを追加するとき、サーバへの URL パスの妥当性検査は行われません。スラッシュの代わりにバックスラッシュを使用して URL パスを追加すると、Java 例外が発生します。

パスはスラッシュを使用して正しく入力してください。次のように指定します。

http://<完全ドメイン名>/packages/

## Sun Cobalt Qube™ 3 アプライアンス

Sun Cobalt Qube 3 のパッケージファイルを BlueLinQ サーバ updates.cobalt.com からインストールしようとする、Java 例外が発生します。

---

## 電源管理 (LOM)

### ネットワークインタフェース

LOM コントロールモジュールは、管理対象ホストのどちらの組み込みネットワークインタフェース (eth0 または eth1) 上でも実行できます。ただし、管理対象ホストの両方の組み込みネットワークインタフェースが有効な場合は、デフォルトで eth0 が使用されます。

管理対象ホストで eth1 インタフェースの使用を強制するには、ホスト上の次のスクリプトを変更する必要があります。

---

注 - これらのコマンドはすべて root で実行します。

---

1. 任意のエディタで、次のファイルを開きます。  
/etc/init.d/bmcscrip
2. Sun Fire™ V60x サーバまたは Sun Fire V65x サーバの場合は、IFACE と CHANNEL の行を編集して次の値にします。  
# Channel 6 == eth0, top interface on V60x and V65x  
# Channel 7 == eth1, bottom interface on V60x and V65x  
IFACE=eth1  
CHANNEL=7
3. Sun LX50 サーバの場合は、IFACE と CHANNEL の行を編集して次の値にします。  
# Channel 6 == eth1, top interface on LX50  
# Channel 7 == eth0, bottom interface on LX50  
IFACE=eth1

CHANNEL=6

4. このファイルの変更内容を保存します。

5. `bmcscript` を再実行します。

```
/etc/init.d/bmcscript start
```

## 電源コマンド

複数の管理対象ホストに対して電源コマンド (電源投入、電源切斷、リセット、識別) を実行すると、コマンドが失敗したことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。実際には、コマンドは正常に実行されているので、このエラーメッセージは間違いです。

コマンドを再実行する必要はありません。

1 台の管理対象ホストに対して電源コマンドを実行するときは、このエラーメッセージは表示されません。

## ヘルスマニタでの予想外の LOM 情報

1 台のホストを 2 台の異なるコントロールステーションで管理できます。

この場合、次の構成を使用します。

- LOM コントロールモジュールが 1 台目のコントロールステーションにインストールされ、2 台目のコントロールステーションにはインストールされていない
- LOM コントロールモジュールのクライアント側コンポーネントが管理対象ホストにインストールされている

これで、管理対象ホストから 1 台目のコントロールステーションに LOM 情報が提供されます。この情報は、ヘルスマニタテーブルに表示されます。

ただし、ヘルスマニタのコントロールモジュールは LOM 情報があると、必ず受け取るように設計されているので、LOM コントロールモジュールがインストールされていない 2 台目のコントロールステーションのヘルスマニタテーブルにも LOM 情報が表示されます。

これはバグまたは 2 台目のコントロールステーションの誤動作ではありません。ここでは、2 台目のコントロールステーションのヘルスマニタテーブルにも LOM 情報が表示される場合があることを覚えておいてください。

---

# AllStart

## 複数の CD-ROM からのディストリビューションの読み込み

CD-ROM のセットから OS ディストリビューションをアップロードするときは、アップロード処理がすべて完了するまでお待ちください。「Task Progress」ダイアログが表示されているときは「Put Task in Background」オプションをクリックしないでください。また、UI で別のタスクを選択しないでください。

このどちらかの操作を行うと、セット内の次の CD-ROM に進むことができず、ディストリビューション全体がアップロードされません。

万一、タスクをバックグラウンドに移動した場合は、このディストリビューションを「AllStart Distributions」テーブルから削除し、同じ手順を最初からやり直す必要があります。

## Red Hat 7.2 を LILO とともにインストールできない

Allstart コントロールモジュールで、Red Hat 7.2 で LILO を使用するための正しい `ksconfig` ファイルが生成されません。インストーラでは、Grub を使用するよう設定されています。

この問題の回避策はありません。

## クライアントを使用可能にするために十分なディスク容量がない

ハードディスクドライブに十分な空き容量がない場合、クライアントを使用可能にするタスクが失敗しますが、タスクが失敗したことを知らせるメッセージは UI に表示されません。

この場合、そのクライアントへのペイロードのインストールが失敗し、`ksconfig` ファイルを検出できなかったか、NFS サーバからの応答がなかったことが示されます。

この問題を解決するには、次の手順に従います。

1. ハードディスクドライブの空き容量を増やします。
2. コントロールステーションの UI で、失敗したペイロードと同じ設定の新しいペイロードを追加します。
3. クライアントで新しいペイロードが使用されるように切り替えます。
4. (省略可能) 古いペイロードを削除します。
5. (省略可能) 新しいペイロードの名前を変更します。

---

## 各言語対応環境の制限事項

### Solaris ベースのクライアントでのモジュールのインストールの問題

Solaris ベースのクライアントでコントロールモジュールをインストールできない場合は次のいずれかを実行してください。

- /etc/default/init ファイルからすべての LANG および LC\_\* のエントリを削除します。

または以下のようにします。

- LC\_ALL を「C」として、Sun Control Station のデーモンを再起動します。

```
# /usr/mgmt/libexec/init.agent stop
Daemon stopped.
# env LC_ALL=C /usr/mgmt/libexec/init.agent start
Daemon started (pid=9744)
```

### ASCII 以外の文字が正しく表示されない

ブラウザウィンドウでは、ASCII 以外の文字が入力できるようになっています (ファイル名や説明の記述など)。しかし、一度保存するとこれらの文字は正しく表示されません。

ユーザーが入力するフィールドにはすべて ASCII 文字を使用してください。